

「ふるさとづくり大賞」総務大臣賞を
受賞した下内野自治会長

いち べ きん いち
勝 部 欣 一 さん



ひと

一関市大東町にある人口約100人の山あいの集落に届いた受賞の知らせに

「本当にびっくりした」と照れながらも「自治会の人たちの長年の努力と協力のおかげ。住民の皆さんにも喜んでもらいたい」と受け止める。

下内野自治会は1999年に老若男女が一人一役を担う「4WD計画」を策定。砂鉄川の清流再生を目指す石磨き大会では日本大と交流するほか、未利用

の農地を活用した移住者の受け入れや薬草の栽培など「自治会員が一丸となって知恵を出し合い多彩な事業を行ってきた」。

工業科の教員として大船渡工高、千厩高などで教壇に立った後、農業に従事。10年前に「古里のために」と自治会長に就任し、「少しずつできることから」計画を進めてきた。「計画に盛り込んだ内容も8、9割はできたのではないかと分析し、「これから10年、20年先を見据えて一歩ずつ、また歩みを進めていく」と思いを新たにす。

今一番の課題は地域の高齢化だ。働き盛りの世代が自治会活動に注力するのは難しい。「自分も含め、役員も60、70代が中心だが、まだまだ頑張るしかない」と笑う。地域住民の笑顔が一番のエネルギーだ。妻と2人暮らし。同市大東町出身。70歳。（一関東支局・山内俊一）